（別紙）　　「新防災教育副読本を活用した指導事例」様式（提出用）

学校名　［　通町　小学校　］　　**氏名**　［　教諭　佐竹　直人　］

［小］**学校**　［４・５・６］　**年版**　　**単元名**　［一番大切なことは］　**P18～19**

教科･領域名　［道徳］　［　**時間**　４５　**分**　］

主な学習活動　（実際に行った活動）	指導の実際
【ねらい】 震災当時の様子や状況を振り返りながら，家族がいる当たり前の環境に感謝する気持ちを持ち，家族のためにできることを考える。 1　震災当時の写真を提示し，当時の様子を振り返る。 2　資料（ｐ18～19）を読む。 あなたにとって，一番大切なことは何ですか。 ・　家族がいること。 ・　友達がいること。 私は，夜になってもお母さんが帰ってこなかった時，どんなことを考えていたでしょう。 ・　大丈夫かなぁ。 ・　早く来てほしいなぁ。 私はどんな気持ちでお母さんにお湯を準備してあげたのでしょう。 ・　お母さんに早く暖まってほしい。 3　自分が家族のためにできることは何かを考える。 ・　普段言えないありがとうの言葉をたくさん言うようにしたい。 ・　お手伝いをする日もあればしない日もあるので，毎日できるように心がけていきたい。 4　教師の説話を聞く。 ○　震災により家と家族を津波で失った友人の話をした。感謝の気持ちを普段から伝えておけばよかったという後悔が残ったという話には，児童は真剣に耳を傾け聞いていた。	（授業参観で実施） ○　津波や火災の写真，友達同士の再会場面の写真などを取り上げ，当時の状況を確認する。 ○　死亡者，行方不明者の人数を確認し，被害の大きさを改めて感じさせる。 ○　指導の手引きにあるワークシートを活用し，進めていく。 書く時間，話し合う時間を設けた。話し合いは，ペアで行った。 ○　考えに迷う児童には，家庭のお手伝いなど，身近な所から考えるように助言した。 ○　ペアでの話し合いの後，全体で話し合い，考えを共有していった。 【授業を振り返って】 事前に「震災を振り返ることについて」のアンケートを学校全体で行った。心的配慮を要する児童がいないことを確認し，授業を展開した。感謝の気持ちを伝える手紙など，形に残るものでまとめをすると親にも伝わる内容になったと思う。